

段落と段落とのつながりを考えて書こう（４年）

心の動きがわかるように

●指導目標

身近なできごとの中から心が動いたことを題材に選び，中心に書くことをはっきりさせ，段落と段落の続き方にも注意しながら作文を書く。

- 心に強く感じたできごとについて，その時の気持ちをよく思い出し，中心に書くことをはっきりさせて，生き生きと作文に書く。書く

●教材について

（１）心の動きをおさえさせる

本教材では，これまで３年生で学習した「中心になる場面をはっきりさせて書くこと」を受け，さらに，段落と段落の続き方に注意しながら書くことで中心に書くことをはっきりとさせ，心の動きをより明確に表現することを目標としている。この一連の学習を支えるのは，何よりも自己の心情の変化が明確に認識されていることが作文の題材に設定されることである。児童には，「体験ノート」や日記なども含め，相手意識や目的意識がしっかりしたテーマを考えさせたい。

（２）構成面での工夫

また，本文から効果的な構成や表現方法を学習する活動では，児童文例の頭注部分を効果的に活用し，「初め」，「中」，「終わり」の基本的構成や個々の段落の組み立て方，細かい心情変化やそれに伴うかきかっこや言葉選びなどの表現の工夫をそれぞれ丁寧に理解させ，自己の作文に活用させていきたい。

作文を書く前に「組み立てメモ」を作成し，中心をはっきりさせるための文章構成や段落構成，おおまかな心の動きを概括的にとらえさせたい。そして，この内容をグループ単位で話し合い見直す活動を設定することで，構成や内容をより効果的なものに発展させたいと思う。また作文を書く際には原稿用紙の使い方にも十分注意させたい。

（３）評価での工夫

書き終わった作文は，本文中のチェック表をもとに読み直すが，自分の作文はもちろん，友達の作文もお互いに読み直す活動を設定し，主・客両面の視点で振り返ることで学習ポイントのより確かな定着を図りたい。

●学習指導計画（全12時間）

時	学習活動	留意点・評価規準及び方法
第1時	○「学習のとびら」を読み、めあてを確かめて学習の見通しをもつ。	○文章構成を意識し、心の動きがはっきりわかるように書く学習であることを意識づける。 関 ：単元の目標を理解し、学習意欲や見通しをもとうとしている。（態度）
第2時	○「夜の電車で」を読み、心の動きと段落の続き方の関係を読み取り、心の動いた場面を中心に書くことや文章の組み立てを考えて書くことを確かめる。	○頭注の内容や「心の動いた場面を中心に」を手がかりに、文章構成や段落間の関係を考えさせる。 読 ：心の動いた場面を中心に文章を組み立てて書くことのよさを理解している。（発言・ノート）
第3時	○「夜の電車で」を読み、かぎっこや言葉選びを工夫すると心の動きが読み手に伝わることを確かめる。	○頭注の内容や「心の動きがわかるように」を手がかりに、効果的な表記や表現方法について考えさせる。 読 ：表現方法を工夫することで心の動きがよくわかる作文になることを理解する。（発言・ノート）
第4時	○心の動きのあったことを中心に題材を考え、組み立てメモを作る。	○日記や「体験ノート」なども手がかりにしてこの一年間を振り返らせ、いちばん心が動いたことを題材に選ばせる。 関 ：自分がいちばん伝えたい内容を題材に選ぶとしている。（態度） ○いちばん心が動いた場面が中心になるように組み立てを考えさせる。 書 ：心の動きがはっきりとわかるように作文の内用を組み立てている。（組み立てメモ）
第5・6時 （本時）	○友達どうしで組み立てメモを読み合い、組み立てや心の動きで工夫していることを話し合って、自分の組み立てメモを見直す。	○3～4名のグループで組み立てメモを発表し合い、友達の工夫に気づかせて自分の組み立てメモの見直しに活用させる。 書 ：友達の意見や工夫を活かし組み立てメモを見直している。（組み立てメモ）
第7・8・9時	○「原稿用紙の使い方」の「注意するところ」から、原稿用紙を使う時の約束を確かめる。 ○組み立てメモをもとにして作文を書く。	○原稿用紙の表記方法にも気をつけさせながら、組み立てメモをもとに作文を書かせる。 書 ：文章の組み立てや、表記・表現方法を工夫しながら作文を書いている。（作文）

第 10 ・ 11 時	○「原稿用紙の使い方」の「書き終わったら」から，推敲に使う記号を確かめる。 ○「書き終わったら」を参考にチェック表を作り，友達どうして作文を読み合う。 ○話し合いの内容も参考にして自分の作文を読み直し，清書する。	○推敲時の表記法を確認し，推敲に活用させる。 ○推敲の視点を明確にし，2人ぐらいでお互いの作文のよいところを見つけさせ，自分の作文の見直しに活用させる。 読：効果的な構成や心情表現に気をつけて友達の工夫を見つけようとしている。（発言） 書：心の動きがよりはっきり表れるように書き直したり書き加えたりしている。（作文）
第 12 時	○友達の作文を読み合い，気がついたことや感じたことなどについて話し合う。	○3～4名のグループでお互いの作文を読み合わせ，工夫していることなど，よい面に目を向けさせて話し合わせる。 読：構成や表現に注意して参考になる点を見つけながら友達の作文を読んでいる。（発言） 話聞：これから作文を書く時に役立ちそうな内容について話し合い，認識を深めている。（発言）

● 本時の展開（本時 5・6 / 12）

目 標

- ・心の動きがよりはっきりとわかるような作文にするために，友達の意見や工夫を参考にして組み立てメモを見直す。

● 展開例

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評価・支援
1 本時のめあてを確認する。 心の動きがよりはっきりとわかるような作文にするために，組み立てメモの内容を見直そう。		
2 見直しのポイントを確認する。 ・「初め」・「中」・「終わり」の組み立てについて ・いちばん心が動いたことを中心にすえる。 ・段落の分け方について	○ 同じグループの友達の組み立てメモを事前に配布し，気づいたことを記入させておく。 ○ 組み立てメモには「いちばん心が動いたこと」を記入させておく。 ○ 内容はできるだけ形式段落の段階まで記入させておく。	・「初め」・「中」・「終わり」の組み立てになっているか。 ・いちばん心が動いたことが中心の場面になっているか。 ・一つ一つの段落の分け方は，はっきりしているか。 ・心の動きがわかる組み立てになっているか。
3 友達の組み立てメモを読み合う。	○ ポイントに沿って見直させ，よいところや工夫していることを付箋に書かせる。	読： 見直しのポイントに沿って友達の組み立てメモを見直している。 （書き込み）
4 それぞれの組み立てメモについて話し合う。	○ 付箋に書かれた内容をもとに，ポイントから外れないように話し合わせる。 ○ 自分の組み立てメモの見直しに役立ちそうなことをメモさせる。	話聞： 見直しのポイントに沿って話し合いをしている。 （発言）
5 話し合いをもとに自分の組み立てメモを見直す。 ・足りない部分を付け足す。 ・必要のない部分を削除する。 ・段落の順番を確かめる。	○ グループから個人の作業に移らせる。 ○ 書き直しはさせず，足りなかった部分は付箋紙に書いて付け足させたり，矢印や二重線で入れ替えや削除をさせたりする。 ○ 理由を明確にして自分の見直した点を発表させる。 ○ 原稿用紙の使い方を学習し，見直した組み立てメモを基に作文を書くことを確認させる。	書： 話し合いを参考にして，組み立てメモを見直している。 （組み立てメモ） ○ 付箋や書き込みの内容を振り返らせる。
6 見直したことを発表する。		
7 次時のめあてを確かめる。		